

子供を通じて

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園保姆

坂 内 み つ

新入幼児が、生れてはじめて、親の手からはなれて、數時間他人の中に生活する事になつて、三日を経過して或る日のことであつた。いとしい子を他人の手に托し兼ねて、あれこれと世話をやいて居た一人の母親が、幼い子をおんぶして私の耳のそばに来て小聲で言ひました。

『たみ子さんとは手をつながないやうにして下さい。あやまちがあるとみんな宅のしん子の罪になりますから。おばさんがおきついで。』私は深くも氣に止めなかつたが、兎に角く要求さるゝまゝに、二人ははなして置いた。それから五六日後のことであつた。

『如何で御座います。時三は亂暴で御座りますから出さへすれば、たみ子さんと喧嘩ばかり致し

まして。たみ子さんだつてよい事ばかりではないのですが』と一人の母親が私に言ひつけた。その日はたみ子の欠席の日であつた。其時はもう或るものが私に成程とのみ込めた。そして私はよい刺戟劑を得たのである。

三人は一軒おいての隣り住居。大きな聲で話をすれば、三軒共に聞えると云ふ目と鼻との間である。入園前には、三人近所から來るのであるから仲よく遊ぶに違ない。三人は相手なしでも遊び得ると期待して居ただけに、入園後の現象のあまりに極端に期待に反するのに驚かされたのである。

しん子は或日、きれいな花菖蒲を持つて來た。勿論、買つて來たものである。一體當園は凡ての寄附を一切斷つて居るが、庭に咲いた花を室の裝飾

用にもつて来てくれた時は、其清き心を無にしな
い爲に喜んで貰ふのである。實際、草花の盛んに
咲きほこつて居る廣い庭のある家が多いので、斯
ういふことは屢々ある。しかし今のはたしかに買
つて来たのである。私は考へた。しかし折角持つて
来たのであり、又しん子の家は物質上豊かなのを
知つて居るから快く受けて置いた。處が驚いたのは
翌朝である。見るからに勝氣さうなたみ子の
おばあさんは、しん子に負けるもんかといはんば
かりに、芍薬を澤山たみ子に持たせて、これ見よ
がしといふ具合に差出した。私は直ぐ、また始ま
つたなと思つたが之れも快く受けた。それかち
一ヶ月たつた。時三の母がきれいな大束の花をも
つて来た。おくれましたが品物は先きの二人に負
けませぬといつた風の心持はすぐに讀み得られ
た。

女三人よれば何とやらいふ。まして勝氣な女が
三人集りて、角つき合をして居るのだから堪らな

い。しかも子供は同年で二人づゝある。相當に修養
された人でも、同じ位置の仲間に、眞から同情を
よせる事は困難な事である。それが同じやうな人
の勝氣が三つぶつつかつては堪つたものでない。
近所の人の話がいつとなし私の耳に入つた。

『近頃小金持になつたと思つて威張つて居るがま
けるもんか』と子供が着物一枚着かへても、目に
角を立て、まげじと着換へさせる。一方では又

『高がたゝき大工のくせに、新銘仙ぢやないか』
時ちやんのなんか、糸織も糸織ゴリゝだ。新銘
仙と糸織と一緒にされてたまるもんですかい』

『家の中が照り輝いたつて、何になる。妾のくせ
にいやにすまし込んで』などと互に悪口を言ひや
つて居る。よせばよいのに、間に居る駄菓子屋の
かみさんが仲に立つて、兩方の悪口の取次をする
のだから、仲はいよゝゝ悪くなるばかりである。

幼稚園ではそれをどう調和させればよいか。神
經質に考へると、親達に話をするにも、顔色から

同じにせねばならず。お歸りの挨拶一つにも厚薄があつては不和の種子になる。何の彼と小さな小さくならぬ様な事々にも注意せねばならぬ。けれども、こんな事を始終念頭においては、却て其空氣を濃くするばかりである。寧ろそれ等の事は一切無頓着に口にも出さず、色にも見せず。たゞ三人の幼児が仲よく遊ぶやうにと、私は斯う信じて、その爲に特別な苦心もし工夫もして見た。

一年たつた。三人の子供は大の仲よしになつた。三人の中一人が一寸でも見えぬと大變である。

『先生、時三さんが居ませんよ、たみ子さんはどこに行きました』と大騒ぎである。始終手をとり合つて遊ぶ。放して置いても、何時の間にか一緒に列んで居る。聞けば此頃は家庭にあつても誠に仲よく、つい喧嘩の聲などを聞いたことがなく、仲がよすぎていつでも始終三人して外で遊んで居て家に這いらない位だ。其有様を親たちやお婆あ

さんも見た。そして此の成人達が知らぬ間に笑顔になつてニコニコ挨拶し始めた。幼稚園に見えても、親たちの感情のやはらいだのがありくと見えて来た。可笑しいのは中間に居る駄菓子屋のみさんである。悪口の中次をしたといふので今では両方から爪はじきをされて出入を禁じられた。その結果は子供がおわしを遣ふ事がなくなつて、親達はますます喜んで居る。隣り同志の悪口など聞き度くても聞かれぬやうになつたといふ事である。

之れは勿論私の手柄でも何でもない。たゞ子供を通して家庭を改良するといふ幼稚園の任務の一つが果されたと思ふ嬉しさのあまり、何かの紀念にと一筆書きつけておく。